

## 甲子園ボウルへの道が新方式にー全国8校でトーナメント

日本学生アメリカンフットボール協会は1月29日の理事会で、全日本大学アメリカンフットボール選手権(甲子園ボウル)の方式を、2022年から変更することを決めた。従来の「東日本」「西日本」の代表決定戦方式を取りやめ、全国の8学連(北海道、東北、関東、東海、関西、北陸、中国・四国、九州)の代表校8校の変則トーナメントを行い、決勝を甲子園ボウルとするもの。新方式は22年、23年の2年間実施し、24年以降については、新方式を継続するかどうかを再度検討するという。

2022年のトーナメントは右のゾーンに関東代表(準決勝から)、東海代表(2回戦から)、北海道代表、東北代表が入り、左のゾーンには関西代表(準決勝から)、九州代表(2回戦から)、北陸代表、中国・四国代表が入る。

1回戦は11月13日に北海道ー東北(東北所管)と北陸ー中国・四国が対戦。11月20日の2回戦は北海道ー東北の勝者がシード校の東海(東海所管)と対戦し、北陸ー中国・四国の勝者はシード校の九州と対戦する。

12月4日の準決勝は2回戦の勝者がそれぞれ、シード校の関東、関西と甲子園ボウル切符をかけて戦う。

なお、2回戦と準決勝でシード校が敗れた場合は、勝ち上がった地区が翌年の大会のシード権を得る。北海道代表が1回戦に勝利し、2回戦に勝てば翌年は2回戦からのシード権を得る。さらに準決勝に勝てば、翌年は準決勝から出場のシード権を得ることになる。

北海道学連から見ると、昨年までの東日本代表決定戦方式よりも、甲子園ボウル出場まで1試合増えることになるが、西日本代表決定戦に関西学連から3校出場していたなどの不均衡が是正され、8学連の扱いが同格に近づくことの意義は大きい。(広報委員・塚田博)

